2021年度

新居浜市海洋教育パイオニアスクールプログラム

実践記録集

新居浜市で唯一の離島「大島」

塩の学習館

塩の学習

ソルティ多喜浜（ミニ塩田）

新居浜市教育委員会

日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

東京大学海洋アライアンス 海洋教育促進研究センター

SPF 笹川平和財団

OPRI 海洋政策研究所

Hello! NEW 新居浜

新居浜市の海洋教育に関するコンセプト

（１）新居浜市における海洋教育について

本市は、四国の瀬戸内海側のほぼ中央に位置し、北側は瀬戸内海の燧灘（ひうちなだ）、南側は赤石山系の山々に面しており、また市内唯一の離島である新居大島には市営の渡海船が運航されているなど、山と海両方の自然を満喫できる自然豊かな環境を有しています。さらに、「マリンパーク新居浜」や「黒島海浜公園」など市民が気軽に河川や海岸等の水辺環境に親しむ場や機会が設けられています。

また、市内すべての小中学校がユネスコスクールに加盟しており、防災・環境・福祉など各校において地域の特色を生かしたＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）に取り組んでおります。

しかしながら、地球規模の温暖化や海面上昇、海洋プラスチックごみの集積など、海洋生態系が深刻な脅威に直面しており、海の自然や資源を守り持続可能な社会を構築するためにも、子どもから大人までひとりひとりが自分のこととして問題を位置づけ、解決に向けて取り組んでいくことが必要です。特に、子どもの頃から海洋教育に取り組んでいくことが重要あると考えております。

そこで、本市では、別子銅山と並んで主要産業であった塩田文化を学ぶことを中心に、子どもたちが海に親しみ、海とともに発展してきたふるさと新居浜に関する知識や理解を深め、海洋がもつ恩恵を感じ、豊かに育つことを目的として「海洋教育パイオニアスクールプログラム」の認定を受け、国連で提唱されたＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）１４「海の豊かさを守ろう」の達成にも寄与する海洋教育に取り組むことといたしました。

新居浜の子どもたちが「海について学ぶ」ことで、自然、歴史文化、産業など「地域の総合的・発展的な学び」となり、「郷土を愛し誇りをもつ、子どもの育成」につながると考えています。

【新居浜の3つの文化】

- 14 海の豊かさを守ろう　多喜浜塩田（海の文化）
- 別子銅山（山の文化）
- 新居浜太鼓祭り（魂の文化）

（２）海洋教育とは

海洋教育は日本の未来を支える学校教育のテーマです

人類は、海洋から多大な恩恵を受けるとともに、海洋環境に少なからぬ影響を与えており、海洋と人類の共生は国民的な重要課題となっています。

海洋教育は、海洋と人間の関係についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能にする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指しています。この目的を達成するために、海洋教育は海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する学習を推進するものです。

海洋教育の４つのキーワード

海洋教育は「海に親しむ」ことから始まり、「海を知る」ことで海への関心を高め、さらに海と人との共生のために「海を利用」しながら「海を守る」ことの大切さを学ぶものです。

（笹川平和財団ホームページ「21 世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」より）

＜新居浜市における海洋教育について＞

（１）海洋教育とは

（２）「海洋国家」の日本

私たちは普段あまり意識しておりませんが、生活のほとんどが海に依存した「海洋国家」です。

・およそ半数は沿岸部に住んでいる
・動物性たんぱく質の４割程度が水産物
・輸出入の９９％は海上輸送に依存している
・輸送量全体の４割は海運に依存している
・国土面積は世界６１位ですが、排他的経済水域は世界６位
・生活を守っていくためには、海洋汚染を防ぎ、海洋資源を守っていかなければならない

私たちの生活は海とは切っても切り離せない関係にあります。
食糧を得ることはもちろん、世界と交易を行う交通の場として、また外国の侵略から国土を守る自然の砦として、あるいは人々の憩いの場として、そして時に自然の猛威にさられつつも、古来より私たちは海と深く関わり合いながら、その社会・経済・文化を発展させてきました。その海がいま危機に瀕しています。私たちの活動が海に与えるさまざまな影響は、もはや海が本来持っている自然の再生能力を超えたものとなっています。世界の人口が増加していく中で、海への依存は今後ますます大きなものとなるでしょう。限りある海の恩恵を次の世代に引き継いでゆくことは私たちに課せられた大きな課題です。そのためには一人一人がこれからは海に守られるのではなく、海を守っていくという意識を持つ必要があります。「海とともに生きる」という姿勢は、未来の社会を担う子どもたちの人間形成の過程において不可欠なものと私たちは考えます。

海で学ぶ、海を学ぶ、海に学ぶ。海はさまざまな学びの要素を包含した魅力ある学習題材です。子どもたちが海にもっとも親しみ、理解を深め、自分たちの力で海を守ってゆく、そんな新しい学びを日本中の学校に広げたい。「海洋教育パイオニアスクールプログラム」は新しい海の学びに取り組んで行こうとする学校を応援します。

２００７年に制定された海洋基本法の第２８条に「海洋に関する国民の理解の増進等」が謳われ学校教育及び社会教育における海洋に関する教育の推進が明記された。一方で、学校教育現場での海洋教育に対する理解は全く得られておらず、それに対応できる教員や教材の不足など整備すべき課題が山積した。

海そのものを対象とした字句では限定的であっても、海を連想できる内容まで拡大すると意外にも幅広い教科で扱われていることがわかった。小学校であれば、理科、社会の方かにもお国語、音楽、図工など、中学校では、歴史、地理、理科のほかにも、国語、家庭かな

どで比較的多く取り上げられている。これらをみると、現行の教科書において必ずしも海洋に関する記述が少ないわけではないことがわかる。しかし、海洋教育という概念で体系的に関連付けられていないため、個々の教員が海洋教育を実施しているという意識がないと推測できる。

①地域への誇り、地域の一員としての自覚を育む
②地域のさまざまな人々との関わりを通じて、問題を発見し解決する力を育成する
③他の学校や関係団体との交流を通じて、コミュニケーション能力を育成する
などを目的に、学校や地域における多様な学習機会を海洋教育に取り組んでまいります。

１．海に対する親しみ、理解、関心を深める
２．私たちの生活が、歴史文化、科学技術の両面で海と深く関わっていることを理解する
３．海洋環境とその保全について理解する
４．持続的に海を利用し海と共にいきることが、持続可能な社会に不可欠であることを理解する

塩づくりは「海を利用する」という観点の学習に
新居浜市の主要産業のひとつであった塩田文化を学ぶことを中心に、海に親しみ、海とともに発展してきたふるさと新居浜に関する知識や理解を深め、海洋がもつ恩恵を感じることで新居浜の子どもたちの
①地域への誇り、地域の一員としての自覚を育む
②地域のさまざまな人々との関わりを通じて、問題を発見し解決する力を育成する
③他の学校や関係団体との交流を通じて、コミュニケーション能力を育成する

2021年度　海洋教育パイオニアスクールプログラム（地域展開部門）年間計画（案）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体 （事務局）		第１回海洋教育推進協議会	映像教材作成会議		海洋教育研究会参加 教員対象研修会				あかがねアクアリウム12/4～1/16 （SDGsアートフェスティバル連携事業） ←→		第２回海洋教育推進協議会 全国海洋教育サミット参加	各校より報告書提出 報告書・実践記録集提出
	←→ 学習プログラム検討・ＤＶＤ内容等検討											
市内参加校 （16校）		年間計画提出									まとめ・発表	
		←→ 海洋教育・ＥＳＤ（ふるさと学習等）の実践										

石ころアート水族館・あかがねアクアリウム
（2021. 12. 4～2022. 1. 16）

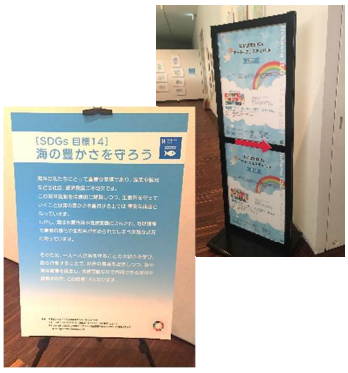
＜概要＞

子どもたちが海で集めた石ころにペイントし、「海の生き物」を制作した。完成品は「にいはまＳＤＧｓアート・フェスティバル 2021」と連携し、展示室を設け子どもたち自身の手で、展示を行った。また、デジタル体験型の事業として、子どもたちが自分で描いた絵が海の中でスイスイ泳ぐ、「あかがねアクアリウム」も同時に実施し、子どもたちの手による芸術と海洋教育を掛け合わせることで、楽しく学びながら、海に対する興味・関心を高めることができた。

＜目的＞

国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」では、2030 年までの国際目標として「持続可能な開発目標（SDGs）」が示され、17 の目標のうち、ターゲット 14 として「海の豊かさを守ろう」という目標が掲げられている。子どもたち自身の手により豊かな海（水族館）を作り上げることで、海や生き物を大切さに触れ、さらに地球温暖化や海面上昇、海洋ゴミなどについて考える機会を提供し、海洋教育の推進を図る。

展示の様子



子どもたち自身の手で豊かな水族館を作り上げることで、自然に興味を持ち、命の大切さを学ぶことができました。

ワークショップや展示作業の様子

ワークショップ

子どもたちが自ら展示します！

にいはまSDGs アート・フェスティバル

2021

Niihama SDGs Art Festival 2021

あかがねミュージアムでは、
ポストコロナを見据えた持続可能な社会の実現に向けて、
国連で採択された2030年までに
全世界が目指す目標「持続可能な開発目標（SDGs）17項目」をテーマとした、
Web連携型の公募展（アート・フェスティバル）を開催します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

「にいはまSDGsアート・フェスティバル2021」
特設Webサイトにおいて、
全ての作品を公開します。

新居浜市美術館（あかがねミュージアム）市民ギャラリーでは、
令和3年12月4日（土）～令和4年1月16日（日）の期間において、
優秀作品の出力パネルをはじめとする展示・紹介を行うほか、
会場内でもwebサイトの閲覧・公開を行います。 ※Webは年度内公開

会期 2021.12.4 sat. ▶ 2022.1.16 sun.

展示期間中の休館日	2021年12月7日(火)、12月13日(月)、12月20日(月)、12月30日(木) 12月31日(金)、 2022年1月1日(土)、1月11日(火)
展示・公開場所	新居浜市美術館（あかがねミュージアム）市民ギャラリー 「にいはまSDGsアート・フェスティバル2021」特設Webサイト
開館時間	午前9時30分～午後5時
観覧料	無料

【主催】
「にいはまSDGsアート・フェスティバル2021」実行委員会
（構成：新居浜市、新居浜市教育委員会、あかがねミュージアム運営グループ）

【共催】
新居浜ユネスコ協会
独立行政法人国際協力機構四国センター（JICA四国）
四国地方ESD活動支援センター
新居浜市小学校長会・中学校長会

【後援】
愛媛新聞社
NHK松山拠点放送局
南海放送
テレビ愛媛
あいテレビ
愛媛朝日テレビ
ハートネットワーク
新居浜文化協会

【特別協力】
住友金属鉱山株式会社別子事業所
住友化学株式会社愛媛工場
住友重機械工業株式会社愛媛製造所
住友共同電力株式会社
住友林業株式会社新居浜事業所
三井住友建設株式会社四国支店

「にいはまSDGsアート・フェスティバル2021」特設Webサイト
https://niihama-sdgs-artfestival.akaganemuseum.jp

にいはまSDGsアート・フェスティバル

最優秀選

Niihama SDGs Art Festival 2021

最優秀選（絵画の部）

6 安全な水とトイレを世界中に

名前 山田 真央

年齢 13歳

作品名 安心・安全な水 届け 世界中に！

作品に対する思い

世界中には日本のように水をきれいにできず、飲めない人々がたくさんいます。だから私は世界中の誰もがきれいな水を飲めるようになってほしいと思い、この絵を描きました。この絵を見て、水が不潔で飲めない人々に清潔な水を届けてほしいです。そして、誰もが清潔な水をあたりまえに飲んだり、使ったりできるようになったら良いなと思います。

最優秀選（写真の部）

15 陸の豊かさも守ろう

名前 岡田 紗采

年齢 16歳

作品名 可憐な宝物

作品に対する思い

写真に写っているツガザクラは、この辺りでは別子銅山の頂上付近でしか育つことの出来ない貴重な植物です。別子銅山の頂上に到着した時にツガザクラを見て疲れが吹き飛ぶくらい癒されたので、私達もこの小さな花たちを新居浜の宝物として守っていきたいという思いを込めています。

Webサイトでは全ての作品を公開しています

「にいはまSDGsアート・フェスティバル2021」特設Webサイト
https://niihama-sdgs-artfestival.akaganemuseum.jp

デジタル&体験型イベントもやってるよ!!

多喜浜小学校1年生の作品を展示中

石ころアート水族館 ～多喜浜の海の生き物～

日時 12月4日（土）～ 1月16日（日）9:30～17:00

場所 市民ギャラリー

参加費 無料

自分で描いた絵が海の中でスイスイ泳ぐ

あかがねアクアリウム

日時 1月4日（火）～ 1月16日（日）10:00～16:00

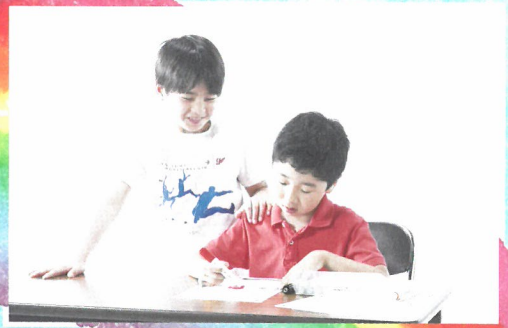
場所 市民ギャラリー

参加費 無料

＼デジタル＆体験型イベント／

自分で描いた絵が海の中でスイスイ泳ぐ

あかがねアクアリウム



日時　1月4日(火)～1月16日(日)
10:00～16:00

場所　市民ギャラリー

参加費　無料

自分で描いた絵が
海の中でスイスイ泳ぐ！

みんながおもいついた
おさかなさんを
いっぱいかこうよ～！

にいはまSDGSアート・フェスティバル2021の会場 市民ギャラリーで開催中 !!

多喜浜小学校1年生の作品を展示中

石ころアート水族館
多喜浜の海の生き物

みんなどんなおさかなが
すきかな？

日時　12月4日(土)～1月16日(日)
9:30～17:00

場所　市民ギャラリー

観覧料　無料

多喜浜小1年生の皆さんの
「石ころアート」を展示 !!

【主催】「にいはまSDGsアート・フェスティバル2021」実行委員会（構成：新居浜市、新居浜市教育委員会、あかがねミュージアム運営グループ）

海洋教育科を通して身に着けさせたい表現力

学　年	表現力	詳しい内容
１年	◎書く力	◎　経験したことを相手に伝わるように書く力 ・　語彙を増やしていくと同時に主語・述語の整った文を書くことができるようにする。その際、助詞を正しく使えるようにする。
２年	◎話す力 〇書く力	◎　事柄の順序を考えながら、相手に伝わるように話す力 ・　主語・述語に気を付けながら、「はじめ」「中」「終わり」を意識して話したり書いたりすることができるようにする。
３年	◎書く力	◎　内容のまとまりで、段落を分けて文章を書く力 ・　「いつ」「どこで」「何を」「どうする」をはっきりとさせ、書きたいことを明確にした文章を書くことができるようにする。
４年	◎書く力	◎　段落相互の関係に注意しながら文章を構成する力 ・　自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にし、段落を構成することができるようにする。
５年	◎書く力	◎　事実と意見・感想を分けて書く力 ・　調べたことや体験したことなどから、事実と意見・感想を分けて書くことができるようにする。
６年	◎書く力 〇話す力	◎　自分の考えと理由を明確にして書く力・話す力 ・　「主張」「理由・根拠」を明確にし、「初め」「中」「終わり」を意識した構成で文章を書いたり話したりすることができるようにする。 （活動後の感想・取材内容まとめ・発表原稿作成など）

学校名	愛媛県新居浜市立多喜浜小学校
授業者	大野　朋美

1.　単元計画

1-1.　単元名

多喜浜小水族館を作ろう！

1-2.　学年

第１学年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

海洋教育科、生活科、図画工作科

1-4.　単元の概要

身近な海や海の生き物への興味・関心を高めるために、校区の海の生き物と触れ合ったり、図鑑を使っていろいろな海の生き物を調べたりする。また、海にある石や流木などの材料を使って自分たちの水族館を作成する。そして、それらをまとめ、発表する。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

本校は、校区に海や山を有し、自然豊かな場所にある。児童たちは、虫捕りをしたり、木の実や落ち葉を拾ったりして自然の中で楽しく遊んでいる。しかし、海の生き物については、直接触れたり、名前や特徴を詳しく知っていたりする児童は多くない。

そこで、まず、校区内の海岸に行き、干潟に住む生き物と触れ合い、海の生き物に興味を持たせたい。次に、図鑑を使って自分の興味のある海の生き物について調べる学習を行い、世界の海には様々な生き物がいることを知り、海の生き物への関心が深まるようにしたい。そして、今までの活動を基にして、石や流木等の海で見つけた材料を使って、多喜浜小水族館を作成する。その際には、あかがねミュージアムで学芸員に石ころアートの作成方法を教えてもらい、水族館作りへの意欲が高まるようにしたい。これらの活動を通して、身近な海や海の生き物への興味・関心を高め、海に親しめるようにしたいと考え、本単元を設定した。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

海の生き物に触れ合ったり、海で活動したりすることを通して、海に親しみを持つとともに、海の様子や生き物について知り、海の生き物への興味・関心を高めたい。また、見学したこと、楽しかったこと、調べたことをまとめたり、自分たちが作成したものを紹介したりする活動を通して、自分の考えを相手に伝わるように表現できる力を育みたい。

1-7.　単元の展開（全３４時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
4	・　「海っこタイム」のねらいを知り、これからの学習の流れをつかむ。 ・　荷内海岸へ行き、総合科学博物館学芸員と一緒に海洋生物の観察を行う。	・　外部講師との連携を図り、見つけた海の生物について、興味・関心を高めることができるようにする。 【主】海の自然に親しみ、進んで海や海の生き物に関心を持とうとしている。 【知･技】磯活動での注意事項を理解し、安全に気を付けて活動することができる。 外部連携…愛媛県総合科学博物館
2	・　荷内海岸へ行き、水族館づくりに向けて貝殻や流木等の材料集めをしたり、海岸の様子を観察したりする。	・　海の生き物の形や体の部位について写真を見ながら想起させ、どのような材料を集めればよいかを考えることができるようにする。 【主】材料集めの活動に楽しんで取り組むことができる。 【知･技】海岸で注意することを理解し、安全に気を付けて活動することができる。
1	・　荷内海岸へ行き、海岸清掃を行う。	・　海ごみが海の生き物にどのような影響を与えているか、写真や映像を用いて事後指導を行い、自分のこととして考えることができるようにする。 【知･技】海ごみの実態について知り、海の生き物への影響を考えることができる。
4	・　図鑑を使って自分が興味をもった海の生き物、石ころアートで作りたい海の生き物を調べ、特徴をまとめる。	・　自分が興味を持った海の生き物から調べ始めることで活動への意欲を高め、他の生き物にも関心を広げることができるようにする。 【知･技】海にはいろいろな生き物がいるということを知り、海の生き物への関心を高めることができる。

14	・　あかがねミュージアムに行き、石ころアートの作成方法を教えてもらう。 ・　海で集めた材料を使って、海の生き物を作成する。 ・　作った生き物の説明ラベルを作成し、友達に紹介する。	・　あかがねミュージアムと連携し、学芸員に石ころアートの作り方を教わることで、活動への興味・関心を高めることができるようにする。 【主】楽しんで作品をつくることができる。 【知･技】石ころアートの作り方を理解し、作品作りに取り組むことができる。 【思･判･表】自分の作った生き物について主語・述語を意識しながら分かりやすくラベルに書き、友達に紹介することができる。 外部連携…あかがねミュージアム 愛媛県美術館
9	・　「たきはましょうすいぞくかん」作りで作った生き物のことや、活動を通して楽しかったことや分かったことをまとめ、発表する。	・　１年間の活動を振り返って、海についてのいろいろな知識が増えたことを確認し、身近な海への愛着を高めることができるようにする。 ・　作った石ころアートで、「自分だけの水槽」を紹介する活動を取り入れることで、発表への意欲を高めることができるようにする。 【主】海洋教育の学習を通して、海と関わり、海を大切にしようとする気持ちを持つ。 【知・技】１年間学習したことを、分かりやすく発表することができる。

2.　学習活動の実際

導　入：　石ころアートの仕方について、愛媛県美術館学芸員に教えてもらう。

活　動：　教わったことをもとに、実際に石ころアートを制作する。

まとめ：　次時からは、自分の調べた海の生き物を作成することを知らせる。

2-1.　単元における位置づけ

単元 ３４ 時間中の １２、１３ 時間目

2-2.　本時の目標

あかがねミュージアムに行って石ころアートの作成方法を教えてもらい、作り方を理解し、楽しく作品作りに取り組むことができる。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1　本時のねらいを確認する。	・　石ころアートで海の生き物を表現し、「多喜浜小水族館」を作っていくことを確認する。 ・　学芸員が作成した石ころアートの手本を見せ、どのような作品を作るか、見通しを持つことができるようにする。
2　石ころアートの作り方を知る。 ・　使用する道具、材料について ・　作成手順について ・　気を付けること	・　学芸員に石ころアートの作り方を教わることで、活動への興味・関心を高められるようにする。
3　石ころアートを作成する。 ・　ぼくは、イカの甲をつかって、ブリを作るよ。 ・　塗った絵の具が乾いてから、次の色を塗るよ。 ・　こんな模様の魚が本当にいたら面白いな。 ・　もう１匹作ろう。	・　机間巡視しながら、色の作り方や塗り方などを確認する。 【主】楽しんで作品をつくることができる。（観察） 【知･技】石ころアートの作り方を理解し、作品作りに取り組むことができる。（観察）
4　学習の振り返りを行う。 ・　石ころアートの作り方が分かったよ。 ・　次は、何の魚を作ろうかな。	・　今後、自分の調べた海の生き物を作成することを知らせ、次時への意欲付けを行う。

3.　今回の活動の自己評価

・　実際にあかがねミュージアムへ行き、学芸員から作り方を教わったことで、活動への興味や関心が高まり、楽しく作品作りに取り組むことができた。 ・　自分の興味のある海の生き物を調べて、石ころアートを作成したことで、今まで知らなかった海の生き物の名前や特徴などを新たに知るとともに、海の生き物に関する知識を増やすことができた。 ・　それぞれの活動後に、振り返りカードを繰り返し書いたことで、文章を書くことに慣れ、主語と述語の整った文章を書くことができる児童が増えてきた。 ・　海っこ集会に向けて、発表の練習を重ねたことで、大きな声ではっきりと話したり、気持ちを込めて表現したりする力が身に付いた。

4.　今後の課題

・　今回は、自分の作りたい海の生き物について図鑑等を使って調べたが、実際に漁港に水揚げされた魚や博物館の展示を見るなど、実物を見たり触ったりするような体験的な活動も取り入れて、一層関心を高められるようにする必要がある。 ・　図鑑等で調べたことを、主語・述語に気を付けながらラベルにまとめる活動は、児童によって調べている項目が異なったり、その内容を児童自身が理解することが難しかったりした。書くことについての表現力を、国語科などを通して指導していく必要がある。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・　あかがねミュージアムとの連携は、今回はＳＤＧｓイベントとのタイアップで行ったため、来年度以降、可能かどうか確認する必要がある。

学校名	愛媛県新居浜市立多喜浜小学校
授業者	浅野　里実

1.　単元計画

1-1.　単元名

海の生きもの図かんを　つくろう

1-2.　学年

第２学年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

海洋教育科、道徳科、生活科、国語科、算数科

1-4.　単元の概要

身近な海の生き物への興味・関心を高めるために、多喜浜の海に生息する海の生き物を飼育する。また、本を使ったり、学芸員の方に質問したりして、飼育の仕方を調べる。そして、調べたことを基に、飼育・観察を行う。さらに、飼育体験を振り返り、海の生き物図鑑を作る。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

本校は、海や山に囲まれた自然豊かな小学校である。児童たちは恵まれた環境の中、伸び伸びと過ごしている。しかし、自然や生き物などに親しみをもっているものの、身近な海の生き物の生態を詳しく知ったり、触れ合ったりする経験がある児童は意外と限られている。 そこで、まず、校区内の海岸に生き物を探しに行った経験を振り返り、どんな生き物を飼育するか考えさせたい。次に、海の生き物を飼育するために必要な餌や住処について、本を使って調べさせたい。そして、調べたことを基に、学芸員の方に飼育の仕方を質問することで、学びを深めたい。海の生き物の飼育体験を通し、海の生き物の生態を調べたり、触れ合ったりすることで海の生き物に対する興味・関心を高めたいと考え、本単元を設定した。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

海の生き物を探したり、飼育したりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持って働きかけようとする力を育みたい。また、それらが成長していることや、生命を持っていることなどに気付くとともに、海の生き物へ親しみを持ち、大切にしようとする心情を育てたい。そして、調べたことを図鑑にまとめ、発表することで、事柄の順序を考えながら、相手に伝わるように話す力を育みたい。

1-7.　単元の展開（全１８時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	・　これまで生き物採集した経験を振り返り、計画を立てる。	・　これまでの児童自身と海の生き物との関わりを振り返らせ、活動への意欲を持つことができるようにする。 【思・判・表】これまでの経験や聞いたり調べたりしたことを基に、計画を立てることができる。
5	・　海の生き物の飼育の仕方を調べる。	・　海の生き物を飼育するために必要な餌や住処について、本を使って調べさせたり、学芸員の方に質問させたりすることで、学びを深めることができるようにする。 ・　学芸員の方に質問をするときには、相手に伝わる質問の仕方を考えさせる。 【知・技】海の生き物が育つ場所の特徴に気付くことができる。 【思・判・表】本を使って調べたり、学芸員の方に質問したりすることで、海の生き物がいた場所と生育環境の関係性を探しながら、世話の仕方を決めることができる。 外部連携：愛媛県総合科学博物館
8	・　海の生き物を採集しに行き、海の生き物を飼育する。	・　調べたことを基に、必要な餌や住処を準備し、飼育・観察をすることで、海の生き物が生命をもっていることや成長していることに触れることができるようにする。 【知・技】海の生き物の特徴や成長の仕方、海の生き物が生命をもっていることに気付くことができる。 【主】海の生き物が元気に過ごすことができるように工夫したり、積極的に生き物と関わったりすることができる。
3	・　飼育した海の生き物についての図鑑を作る。	・　主語と述語等の使い方の留意点を伝え、図鑑作りを行う際、分かりやすい図鑑を作ることができるようにする。 【知】海の生き物の特徴や成長の仕方に気付くことができる。 【技】相手に伝わるように主語と述語等に気を付けて、図鑑を作ることができる。
1	・　作った図鑑をもとに、これまでの飼育活動について友達と伝え合う。	・　飼育した海の生き物について振り返らせ、児童同士で共有させることで、世話をしてきた海の生き物に親しみをもち、これからも生き物を大切にしようとする気持ちを高めることができるようにする。 【思・判・表】これまでの学習を振り返り、主語と述語に気を付けたり、事柄の順序を考えたりしながら、自分の飼育体験を友達に伝えることができる。

2.　学習活動の実際

導　入：　知っている海の生き物について話し合う。

活　動：　本などで調べたり学芸員の方に質問したりしながら、海の生き物を飼育する。

まとめ：　調べたことや飼育体験を基に、海の生き物図鑑を作成する。

2-1.　単元における位置づけ

単元 １８ 時間中の ５、６ 時間目

2-2.　本時の目標

学芸員の方に、海の生き物について質問することを通し、海の生き物がいた場所と生育環境の関係性を探しながら、世話の仕方を考えることができる。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1　目的を確認する。	・　本時の活動の目的を確認しておくことで、活動への意欲付けを行う。
2　学芸員に海の生き物の飼育の仕方について、質問を行う。 ・　どんな餌が必要ですか。 ・　水槽に生き物は､何匹飼うことができますか。 ・　餌はいつあげたらいいですか。	・　海の生き物がいた場所と飼育の仕方を関連付けて教えてもらうことで、海の生き物がいた場所と生育環境の関係性を見付けやすくする。 ・　本時までに書いたワークシートを使って、質問できるように準備しておく。 【知・技】学芸員に自分が考えたことを質問し、分かったことをメモに取ることができる。　（観察・ワークシート）
3　質問したことを基に、飼育の仕方を考える。 ・　餌はカニカマにしようかな。 ・　生き物はたくさん入れるといけないのだな。 ・　餌は、朝あげようかな。	・　飼育の仕方で分からないことがあった時に、学芸員に教えてもらえるようにする。 【思･判･表】海の生き物がいた場所と生育環境の関係性を探しながら、世話の仕方を決めることができる。 （発言、行動、ワークシート）
4　本時の活動を振り返る。 ・　飼育の仕方がたくさん分かった。 ・　早く育てたいな。	・　分かったことをまとめ、次時への意欲付けを行う。

3.　今回の活動の自己評価

・　海の生き物の飼育を通し、生き物への興味・関心を高めることができた。特に、生き物の飼育の仕方を調べる活動は、生き物が育つ場所の環境に関心を向けるために効果的であった。また、生き物の命の大切さに気付くことができた。 ・　学芸員の話を聞くことで、海の生き物の生育環境に関連させて、世話の仕方を決めることができた。 ・　図鑑作りでは、観察の視点を明確にすることで、児童は、詳しく観察ができ、興味・関心も高まった。また、主語と述語に気を付けてまとめることもできた。 ・　海っこ集会で調べたことを他学年に伝えるという目標を立てることで、相手を意識した話し方を工夫することができた。 ・　感想を書くときに、まとまりに分けて分かりやすく書くことができる児童が増えてきた

4.　今後の課題

・　夏場は気温が上がり、飼育環境を整えることが難しかったため、海の生き物の生態を詳しく調べることができなかった。活動時期を考慮する必要がある。 ・　表現力において、主語がなかったり、主語と述語がねじれていたりする文章を書く児童がいるため、国語科などを通して指導していく必要がある。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・　ねらいや活動に合わせて、外部講師などと連携を取りながら進めていく必要がある。

学校名	愛媛県新居浜市立多喜浜小学校
授業者	福田　晋太郎

1.　単元計画

1-1.　単元名

海からのおくり物

1-2.　学年

第３学年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

海洋教育科、総合的な学習の時間、国語科

1-4.　単元の概要

海と自分たちがつながっていることに気付き、海から多くの恵みを受けていることを理解するために、多喜浜の海の生き物や海に関わる人たちと接したり、海の生き物が姿を変えている身の回りの食品を調べたりする。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

多喜浜地域は昔、別子銅山と並んで新居浜市の産業を支えてきた多喜浜塩田ゆかりの地である。そのため、児童たちは、塩田のカルタで遊んだりする中で多喜浜に塩田があったことは知っている。しかし、「海」との直接的な関わりは意外と少なく、海での活動体験も乏しいことが分かった。

３年生は、国語科「すがたをかえる大豆」を学習し、大豆が加工されて様々な食品に変化していることを知っている。また、給食に大豆が姿を変えた食品が出ると、意欲的に見付けるなど、食について関心を示すようになった。

そこで、まず、海の生き物や海に関わる人たちにインタビューしたり図書などで調べたりする活動を通して、海の生き物が加工されて身近にある様々な食品に姿を変えていることを理解させたい。次に、食の観点から海と自分たちはつながっており、私たちが多くの場面で海の恵みを受けていることを理解させたいと考え、本単元を設定した。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

様々な体験活動や海の生き物が姿を変えている身の回りの食品を調べることを通して、海と自分たちがつながっていることに気付くと共に、海から多くの恵みを受けていることを知り、海を大切にしようとする心情を育てたい。また、「いつ」「どこで」「何を」「どうする」をはっきりとさせ、調べたことをまとめて発表することを通して、分かりやすく伝える力を育みたい。

1-7.　単元の展開（全２０時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
5	・　荷内海岸へ行き、総合科学博物館の専門学芸員の方と一緒に海洋生物の観察を行う。 ・　総合科学博物館の専門学芸員の方に、潮の満ち引きによって、生息する生き物が変わることについて話を聞く。	・　外部講師と連携を図り、児童が様々な観点から海と触れ合うことができるようにする。 【主】海の様子に関心を持ち、進んで海や海の生き物に親しむ。 【知・技】磯活動での注意事項を理解し、安全に活動することができる。 【知・技】潮の満ち引きによって、生息する生き物が変わることが理解できる。 外部連携…愛媛県総合科学博物館
6	・　自分たちが海からどのような恵みを受けているかを考える。 ・　地域の漁師さんに、どのような魚を取っているのか話を聞く。	・　聞きたいことをまとめさせておき、主体的にインタビューや観察ができるようにする。 【主】海から受けている恵みについて関心を持ち、進んで調べたり考えたりする。 【知・技】私たちが海から多くの恵みを受けていることを理解することができる。
3	・　加工工場を見学し、加工食品がどのような食材から作られているかを学習する。	・　自分が解決しようとする課題を持つことができるようにする。 【主】意欲的に見学をしたり質問をしたりして、自分の課題を解決しようとする。 【知・技】海の生き物から様々な加工食品ができていることを理解することができる。
6	・　海の生き物から加工された他の食品について調べ、発表し合う。	・　海から多くの恵みを受けていることを知り、海を大切にしようとする気持ちを高めることができるようにする。 【主】海から受けている恵みについて関心を持ち、進んで調べたり考えたりする。 【思・判・表】「いつ」「どこで」「何を」「どうする」をはっきりとさせ調べたことを自分なりの表現で文章をまとめたり発表したりすることができる。

2.　学習活動の実際

導　入：　漁師さんの話を振り返る。

活　動：　加工されている様子を見たり体験したりする。

まとめ：　分かったことをまとめる。

2-1.　単元における位置づけ

単元　２０　時間中の　１２、１３、１４　時間目

2-2.　本時の目標

海の生き物が姿を変えている様子を見ることで、加工食品への関心を高めることができる。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
１　漁師さんの話を振り返る。 ・　鯛やサワラがとれていた。 ・　食べられないものもあると言っていた。	・　漁師さんの話を振り返らせる。 ・　そのまま食べられない生き物に着目させる。
２　海の生き物で、姿を変えている食べ物には何があるか、予想する。 ・　缶詰や、ソーセージなどがある。	・　スーパーマーケットに並んでいる食品を思い起こさせ、視点を広げさせる。
３　加工されている様子を見たり体験したりする。 ・　魚に見えない。 ・　形が大きく変わっている。	・　事前に加工される海の生き物について紹介し、関心を高めやすくする。
４　見たり体験したりして分かったことををまとめる。 ・　竹輪やつみれなども海の生き物から作られている。 ・　食べやすいように作り変えている。 ・　大きく形が変わるものがある。	・　分かったことや更に調べたいことをまとめ、次時への意欲付けを行う。 【主】見たり体験したりしたことについて関心を持つことができる。 （観察・ワークシート） 【知・技】海の生き物から様々な加工食品ができていることを理解することができる。（ワークシート）

3.　今回の活動の自己評価

- 　魚の獲り網を引いたり、当日に獲った魚を触ったりした後、魚を加工している様子やさばく様子を見たことで、子どもたちは、とても意欲的に取り組むことができた。
- 　実際に魚を絞める工程を見学したことにより、残酷ではあるが、命の授業としては、とても有意義なものになった。
- 　後日、加工された食品を御厚情で、給食に提供していただき、自分たちの生活とつながっていることを実感することができた。
- 　表現力においては、実際に体験したことを書くことにより、事実や事柄を具体的に文章で表すことができた。

4.　今後の課題

- 　更に興味・関心を高めるため、ブックトークなどの授業を行ったり、実際に漁をしているところを見学したりする必要がある。
- 　語彙力の少なさから感情や様子などの具体的な内容を含んだ感想を書くことに関して難しい部分があった。語彙力は、日常生活や国語科の学習で培うことが重要であるため、日々の学習を大切にしていく必要がある。
- 　「いつ」「どこで」「何を」などが混ざった文章を書いてしまう児童や同じ内容であっても細かく段落をつけてしまうなど段落を分けることに戸惑う児童がいた。国語科などを通して指導していく必要がある。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 　ねらいの達成に効果的な工場見学・体験ができる施設を確保する。
- 　調べ学習をスムーズに行うために、図書の確保、ホームページの確認などをしておく。
- 　時期によって適した生物がいるかを確認する必要がある。

学校名	愛媛県新居浜市立多喜浜小学校
授業者	佐藤　絵理

1.　単元計画

1-1.　単元名

「海のめぐみ　塩」つくり隊

1-2.　学年

第４学年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

海洋教育科、総合的な学習の時間、学級活動、道徳科、国語科、社会科、算数科、理科、体育科

1-4.　単元の概要

多喜浜の海や生き物を観察したり、多喜浜塩田について調べたり、入浜式塩田や塩作りを体験したりする。また、昔から継承されている伝統ある塩田や先人の苦労について調べ、学習したことをまとめて発表する。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

多喜浜地域は昔、別子銅山と並んで新居浜市の産業を支えてきた多喜浜塩田ゆかりの地である。しかし、この地域がかつて塩田で栄えていたという面影は、残っていない。塩田に関わって生きてきた人々の伝承や、多喜浜塩田資料室、ソルティ多喜浜などの施設を通して、それらを思い起こしながら学習するのが現状である。

そこで、まず、社会科の郷土を知る学習の中で多喜浜塩田について学ぶと共に、総合的な学習の時間に多喜浜塩田の史跡などについても調べる。また、それらの学習と関連付けて、塩作りや地域で継承されている多喜浜塩田について詳しく調べることを通し、海がかつてこの地にもたらした恵みに興味を持たせたい。そして、塩作りに関わりの深い海での様々な活動や塩作り体験を通して、海洋保全の必要性や大切さに気付かせたいと考え、本単元を設定した。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

様々な体験活動を通して、海に対する豊かな感受性を培い、海の自然に親しもうとする心情を育てたい。また、塩田について調べたり、まとめたりする活動を通して、塩作りに関わりの深い海に関心を持ち、環境保全の必要性に気付くとともに、自分の考えやそれを支える理由、内容を考えた段落づくりを意識しながら、的確な情報発信を行うなど伝える力を育みたい。

1-7.　単元の展開（全２９時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
3	・　多喜浜公民館塩田資料室を訪れ、ＤＶＤを鑑賞したり、多喜浜塩田の道具等の展示を見学したりする。	・　地域の方から説明を聞いたり、実物を見たりすることで、多喜浜塩田に興味を持つことができるようにする。 【主】多喜浜塩田に興味を持ち、進んでメモをする。 【知・技】多喜浜塩田で使われていた道具等や当時の様子を知ることができる。 外部連携…多喜浜公民館
6	・　多喜浜塩田について、詳しく知りたいことを図書資料やインターネットなどで調べる。	・　今までの学習を振り返らせることで、調べたいテーマを考えることができるようにする。 【主】多喜浜塩田について、進んで調べる。 【知・技】時代とともに塩田の仕組みが変化したことや当時の人々の苦労などについて詳しく知ることができる。
2	・　地域の方と垣生漁港へ行き、かん水の元である海水を汲む。そして、海水を持ち帰り、校内施設の流下盤に流し、かん水を作る工程を観察する。	・　現地での見学ではしっかりとメモを取りながら聞くことで、かん水の作り方を理解することができるようにする。 【主】海の様子やかん水づくりに関心を持つことができる。 【知・技】かん水づくりの工程を知ることができる。 外部連携…多喜浜塩田資料館建設推進委員会
2	・　地域の方から塩作りについて話を聞き、塩作りを体験する。	・　持ち帰った海水からできたかん水を用いて塩作りをすることで、海の恵みに気付くことができるようにする。 【主】塩作りに興味を持ち、進んで取り組む。 【知・技】塩の作り方を知り、実際に体験活動を行うことで、塩作りに欠かせない海の大切さに気付くことができる。 外部連携…多喜浜塩田資料館建設推進委員会

6	・　うたづ海ホタルへ行き、塩田の仕組みを確認し、入浜式での塩作り体験をする。	・　塩田の仕組みを知るとともに、塩作りの大変さに気付くことができるようにする。 【主】塩作りや塩田に興味を持ち、楽しんで見学することができる。 【知・技】塩田の仕組みを知ることができる。 外部連携…うたづ海ホタル
１０	・　多喜浜塩田や塩作りについて調べ、分かったことや海の様子について、グループごとにまとめて発表する。	・　塩作り体験を通して、海洋保全の必要性に気付き、海を守っていこうとする気持ちを高めることができるようにする。 【思・判・表】「海っこタイム」で学習してきたことを振り返り、自分の考えとその理由や事例との関係を明確にしながら効果的にまとめることができる。

2.　学習活動の実際

導　入：　入浜式塩田について調べ、どのような作業を行っていたのかを知る。

活　動：　うたづ海ホタルへ行き、塩田の仕組みを確認し、入浜式での塩作り体験をする。

まとめ：　塩作り体験を振り返り、自分たちの活動をまとめ、伝え合う。

2-1.　単元における位置づけ

単元 ２９ 時間中の １４，１５、１６、１７、１８、１９ 時間目

2-2.　本時の目標

・　うたづ海ホタルへ行き、入浜式塩田での作業体験を通して、塩作りや塩田に興味を持つ。

・　塩田の仕組みを知るとともに、塩作りの大変さに気付くことができる。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1　学習のめあてを確認する。 ・　うたづ海ホタルはどんなところなのかな。 ・　どんな活動ができるのだろう。楽しみだな。	・　公共施設を利用するときのマナーやルールについて、確認しておく。 ・　うたづ海ホタルについて、事前にどのような施設なのか押さえておく。
2　入浜式塩田の塩作りの工程について説明を聞く。	・　話をよく聞き、作業のポイントを確認させる。

・　入浜式塩田について、学習したことをもう一度確認しながらお話を聞こう。 ・　塩をつくるために、昔の人は大変な苦労をしていたのだな。	【主】多喜浜でも行われていた入浜式塩田に興味をもち、真剣に話を聞く。（観察） 【知・技】入浜式塩田の仕組みについて理解することができる。 （観察・ワークシート）
3　入浜式塩田の作業を体験する。 ・　浜引きは、作業を進めていくにつれ砂が重くなっていき、大変だな。 ・　浜飼は、海水を散布させることが難しいな。 ・　入鍬は、手伝ってもらわないと、重くて沼井の中に砂を入れることができないな。 ・　この作業は子どもでは無理だな。	・　作業を体験することで、当時の人々の苦労を実感させる。 ・　上手く作業ができない児童には、作業のコツを教えたり、手伝ったりする。 【主】入浜式塩田に興味を持ち、進んで作業を行う。（観察） 【知・技】入浜式塩田の作業の流れや道具について理解することができる。 （観察・ワークシート）
4　学習のまとめをする。	・　もう一度、体験でのポイントを説明し、確認させる。 ・　今回の体験で学習したことをまとめさせる。 【主】入浜式塩田について関心を持つことができる。（ワークシート） 【知・技】入浜式塩田の仕組みについて理解し、作業の流れや道具について、自分の考えを明確にしながらまとめることができる。（ワークシート）
5　全体で交流する。	・　まとめた内容を発表させ、意見や感想を伝え合わせる。 ・　なかなか発言しにくい児童には、例を示したり、伝えたいことを確認したりするなどの支援を行う。 【主】意欲的に発言したり、友達の意見に耳を傾けたりすることができたか。 （観察） 【知・技】互いの考えの共通点や相違点を見付け、伝え合うことができたか。

3.　今回の活動の自己評価

- 　入浜式塩田について興味を持ち、当時の人々の苦労を知ることができた。
- 　塩田施設と連携し、専門的な知識を学ぶことで、児童の意欲につながった。
- 　実際に見学したり体験したりすることで、塩作りへの興味・関心が高まった。
- 　調べたことや体験したことをまとめる活動において、段落相互の関係に注意しながら文章をつくることを大切にしてきた。その結果、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にした文章を書くことができるようになった。

4.　今後の課題

- 　自分の考えと理由との関係を明確にして、文章で表現する力は身に付いてきたが、話合いの中で表現する力はまだ不十分なところがある。そのため、今後も国語科などを通して指導を続けていく必要がある。
- 　屋外での活動の場合、天候による延期が想定されるため、ゆとりある日程調整が必要である。
- 　交通機関や施設等への連絡や移動の手配、旅費等も考慮する必要がある。
- 　コロナ禍における暑さや寒さ対策等、児童の体調管理にも気を配る必要がある。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 　天候やコロナ等の特殊な事情により、屋外での活動が制限される場合を考慮する必要がある。

学校名	愛媛県新居浜市立多喜浜小学校
授業者	松下　博之

1.　単元計画

1-1.　単元名

多喜っ子　海洋調査隊

1-2.　学年

第５学年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

海洋教育科、総合的な学習の時間、図画工作科、国語科

1-4.　単元の概要

多喜浜の海や瀬戸内海に生息する生き物や植物を観察する。また、多喜浜の海岸環境について調べ、流れ着くごみの種類や様子についてまとめ、発表する。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

多喜浜地域は昔、別子銅山と並んで新居浜市の産業を支えてきた多喜浜塩田ゆかりの地である。児童たちはこれまで、多喜浜塩田の歴史を総合的な学習の時間の中でしっかりと学んできた。このことにより、自分たちにとって、海は切り離すことのできないかけがえのないものであると感じている。しかし、そのかけがえのない存在である「海」との直接の関わりは意外にも少なく、海での活動体験も乏しいことが分かった。 そこで、まず、校区内の海岸へ調査に出掛け、海の生き物に触れたり、海と親しんだりするとともに、これまでとは違った「海」との関わりを持ち、海洋に対する興味・関心を高めたい。次に、そこから、生き物たちの生息する「海」の環境へと視野を広げていきたい。そして、集団宿泊訓練で訪れた大三島の海でも、生き物調査を行うなど様々な活動を通して、生き物の多様性や海のつながりなどを体感させ、海洋保全の必要性や大切さに気付かせたいと考え、本単元を設定した。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

様々な体験活動を通して、海に対する豊かな感受性や関心を培い、海の自然に親しもうとする心情を育てたい。また、海の環境について調べたりまとめたりする活動を通して、海の環境保全に主体的に関わろうとする態度を養うとともに、事実と意見、感想を分けて書き、的確な情報発信を行うなどの伝える力を育みたい。

1-7.　単元の展開（全２１時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
4	・　荷内海岸へ行き、総合科学博物館学芸員と一緒に海洋生物の観察を行う。	・　外部講師と連携を図り、児童が様々な観点から海と触れ合うことができるようにする。 【主】海の自然に親しみ、進んで海や海の生き物に関心を持つ。 【知・技】磯活動での注意事項を理解し、安全に活動することができる。 外部連携…愛媛県総合科学博物館
6	・　大三島の海岸で、総合科学博物館学芸員と一緒に海洋生物の観察を行い、多喜浜の海と比較する。 ・　生息する生き物から分かる海の状態について知る。 ・　出会った生き物や海の様子について新聞にまとめ発表する。	・　大三島の海岸に生息する生き物の種類や生息数に目を向けて調査し、多喜浜の海との共通点や相違点に気付くことができるようにする。 【知・技】生息する生き物の種類や個体数によって、海の状態を知ることができることを知り、観察することができる。 外部連携…愛媛県総合科学博物館
5	・　これまでの学習を振り返る。 ・　荷内海岸でごみ拾いを行い、海洋ごみの量や種類について調査する。 ・　海岸の砂を採取し、浮遊物を調査する。 ・　マイクロプラスチックについて知りそれらを減らすために自分たちができることを考える。	・　これまでの調査で分かった各海岸の共通点や相違点を確認していく中で、海洋ごみの存在に気付くことができるようにする。 【主】海洋の環境保全の必要性に気付いている。 【知・技】身近な海にも海洋プラスチックが存在していることを知ることや海洋保全のための取組を知ることができる。 【思・判・表】海洋プラスチックを減らすために自分たちにできることを考え、事実と意見を分けて書くことができる。
6	・　多喜浜の海洋生物の生息状況等、調べて分かったことや、身近な海の環境問題について、自分たちの考えをまとめ、発表する。	・　海洋の環境保全や海との共生について考え、自分たちにできることを実行していこうとする気持ちを高めることができるようにする。 【思・判・表】「海っこタイム」で学習したことを効果的にまとめることができる。

2.　学習活動の実際

導　入：海洋ごみの調査を振り返り、様々な種類の海洋ごみがあったことを確認する。

活　動：聞　　く　　海洋プラスチック問題やマイクロプラスチックがもたらす環境等への悪影響について理解する。

活　　動　　荷内海岸から砂を採取する。

観　　察　　荷内海岸から採取した砂を水につけ、浮遊物を採取、観察し、海洋プラスチック問題が身近な問題であることに気付く。

話し合う　　海洋プラスチック問題から海を守るために自分たちにできることを考える。

まとめ：自分たちにできることをまとめ、次時につなげる。

2-1.　単元における位置づけ

単元　２１　時間中の　１１、１２、１３、１４、１５　時間目

2-2.　本時の目標

海洋問題を自分事としてとらえ、海洋環境の保全のために自分にできることを考え、これからの生活に生かしていこうとする。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1　海洋ごみの調査を振り返る。 ・　たくさんの種類のごみがある。	・　様々な種類のごみがあったことを想起させる。
2　海洋プラスチックの問題についての話を聞く。 ・　海洋プラスチックは、たくさんの生き物に悪い影響を与える。 ・　マイクロプラスチックは、私たちが食べている魚の中にも入っているのかもしれない。	・　視覚的にも分かりやすい動画や絵本を用いることで、海洋プラスチック問題についての理解を深める。
3　大三島、荷内海岸で採取した砂を水に浸し、浮遊物を観察する。 ・　干潟の砂にも少量ではあるが、マイクロプラスチックが含まれている。	・　マイクロプラスチックを確認するために、注意深く観察するよう声掛けをする。 ・　海洋ごみの問題が、自分たちにも関わりのある問題であることに気付くことができるように発問を工夫する。 【主】海洋の環境保全の必要性に気付いている。　（ワークシート）

4　海洋プラスチック問題を解決するための取組を調べる。 ・　世界で協力して解決しようとしている。 ・　たくさんの地域で様々な取組をしている。 ・　小学生でもできる活動がある。 ・　まずは、プラスチックを使わないようにすることが大切だ。 ・　しっかりと分別をすることが大切だ。	・　インターネットを活用して、海洋プラスチック問題解決のための取組を調べる際には、サイトを指定しておく。 【知・技】海洋の環境保全のための取組を知ることができる。　（ワークシート） ・　ごみの分別を行いながら、自分たちの生活との関連の有無について考えることができるようにする。
5　海洋プラスチック問題を解決するために自分にできることを考え、活動する。 ・　分別を呼びかけるポスターを作ろう。 ・　レジ袋をもらわないようにするために、オリジナルマイバックを作ろう。	・　３Ｒの視点を持たせながら、自分にできることを考えさせる。 【思・判・表】海洋プラスチックを減らすために自分たちにできることを考え、事実と意見を分けて書くことができる。 （ワークシート）

3.　今回の活動の自己評価

・　今回の活動を通して、海洋ごみの問題は他人事ではなく、自分たちに直結している問題であることに気付くことができた。そして、そこから自分たちの問題として、どのように解決していくことが望ましいのかを考えていく良いきっかけになった。
・　様々な取組を調べることを通して、海洋プラスチック問題について理解を深めることができた。
・　インターネットを活用する際に、サイトを教師が提示したことで、スムーズに調べ学習ができ、ねらいにせまることができた。
・　実際に調査して分かった事実とそれを受けて考えたことを区別して、意見文を書くことができる児童が増えた。
・　国語科「グラフや表を用いて書こう」の単元では、海洋問題について体験したことを基に考えたため、多くの児童が意欲を持って進めることができた。

4.　今後の課題

・　海での活動は、潮の干満によって活動時間が左右されるため、雨天などと重なった場合、後日すぐに実施することができない。そのことも考慮した上で、ゆとりのある単元計画を立てておく必要がある。
・　書く活動では、調査して分かった事実については、分かりやすくまとめることができていたが、それを受けて考えたことについては、事実とずれている児童が見られた。事実と考えたことを対応できるようにワークシートを工夫する必要がある。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・　事前に海岸に出向いてごみの様子について調査を十分に行い、海洋プラスチックごみがどの辺りにあるのか、つかんでおく。 ・　児童の安全面を十分確保する。

学校名	愛媛県新居浜市立多喜浜小学校
授業者	宇髙　陽子

1.　単元計画

1-1.　単元名

多喜っ子　「海を守りたい」

1-2.　学年

第６学年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

海洋教育科、総合的な学習の時間、道徳科、国語科

1-4.　単元の概要

実際に近郊の海に出向き、塩田に向くとされた多喜浜の干潟の様子を観察したり、現在の多喜浜塩田跡地の様子を調べたりする。また、塩田の仕事に携わった方々や、地域の方々にお話を聞くなどし、多喜浜の町の発展に海がどのように関わってきたのかを学習する。そして、調べたことを、全校に発信する。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

多喜浜地域は昔、別子銅山と並んで新居浜市の産業を支えてきた多喜浜塩田ゆかりの地である。児童たちはこれまでにも、多喜浜塩田の歴史を総合的な学習を通して学んできた。このことにより、海は、自分たちにとって、切り離すことのできないかけがえのないものであると感じている。しかし、そのかけがえのない存在である「海」と自分たちの町の発展がどのように関わっているかを考える機会が少なく、知識も乏しいことが分かった。 そこで、まず、「海っこ開き」をきっかけに、塩田に向いていたとされる多喜浜の干潟の様子や塩田跡地の変容について考えさせ、ふるさとの発展に対する興味・関心を高めたい。次に、塩田の仕事に携わった方々や地域の方々から、昔の話を聞いたり、現在の多喜浜の様子について調べ学習を行ったりすることによって、理解を深めさせる。そして、これらの活動を通して、自分たちの町の発展には、「海」が深く関わっていることに気付かせるとともに、下級生や全校に発信する活動を行うことで、持続発展的に海と共生する心情を育てたいと考え、本単元を設定した。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

地域の歴史に触れ、海がふるさとの土台になっていることを知ることで、「海」に対する豊かな感受性や関心を培い、身近な海での様々な営みを守りたいと思う心情を高めたい。また、知りたい事柄について聞いたり調べたりする活動を通して、ふるさとと「海」との深い関わりや地域の方々の熱い思いを感じさせるとともに、自分の考えと理由を明確にしてまとめ、的確な情報発信を行うなどの伝える力を育みたい。

1-7.　単元の展開（全３５時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
4	・　荷内海岸の様子を観察したり、総合科学博物館学芸員の話を聞いたりしながら、多喜浜塩田の跡地が現在どのように活用されているのかを知る。	・　外部講師と連携を図り、児童が様々な観点から海と触れ合うことができるようにする。 【主】　海の自然に親しみながら、地域の海岸の様子に興味を持って活動することができる。 外部連携…愛媛県総合科学博物館
13	・　多喜浜塩田ができるまでの歴史について自分たちで調べたり、地域の方々と一緒に史跡を訪ね、ふるさとの偉人についての話を聞いたりしながら、ふるさとの歴史についてまとめる。	・　ロイロノートを活用し、自分の調べた事柄を分かりやすく整理できるようにする。 【主】　地域の方のお話を主体的な態度で聞いたり積極的に質問をしたりしている。 【思・判・表】　下級生に伝えるという目的を持ち、相手に伝わりやすい表現を活用することができる。
7	・　多喜浜塩田が廃田になった後、工業団地に生まれ変わった経緯や工業団地の様子、海の様子の変化について、多喜浜塩田資料館建設推進委員に話を聞くなどして調べまとめる。	・　塩田が廃田になった後の多喜浜の様子に興味を持ち、進んで調べ活動を行い、工業都市として発展していく多喜浜と、海の様子の変化に興味を持つことができるようにする。 【主】　変わっていく多喜浜塩田の様子に興味を持つことができる。 【知・技】　多喜浜塩田の今と昔の様子を知ることができる。 外部連携…多喜浜塩田資料館建設推進委員会
11	・　これまで学習してきたことをまとめ、「多喜浜今昔物語」として、全校に発表する。	・　海洋環境の問題を、自分自身の問題として考えることができるようにする。 【思・判・表】自分自身と関連付けながら、自分の考えと理由を明確にして、調べたことを分かりやすくまとめ伝えることができる。

2.　学習活動の実際

導　入：　グループごとに、地域の方々に挨拶をし、自己紹介をする。

活　動：　各グループが担当する場所に地域の方々と一緒に出掛け、お話を聞いたり質問をしたりしながら、塩田の歴史について学習する。（多喜浜塩田資料館建設推進委員・多喜浜公民館）

まとめ：　聞いた内容や、調べたいことをまとめ、次時につなげる。

2-1.　単元における位置づけ

単元　３５　時間中の　１０、１１、１２、１３　時間目

2-2.　本時の目標

地域の方々と、塩田に縁のある史跡に出向き、直接話を聞いたり、質問をしたりすることで、塩田に対する知識を深めることができる。また、地域の方々から説明を受けることで、相手に伝わりやすい説明の仕方を学ぶことができる。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
１　各グループでのめあてを確認する。 ○　塩竈神社・湊神社グループ ○　久具山公園（天野　喜四郎）グループ ○　明正寺（深尾　権太輔）グループ ○　かしょい・ボンデングループ ○　ガリ山・多喜浜歴史グループ	・　安全に移動ができるように、地域の方々と事前に打ち合わせを行っておく。 ・　移動の時間も大切にし、地域の方との会話を通して、多喜浜の昔の様子などを知ることができるように声掛けする。
２　それぞれの担当場所で、塩田推進委員の方々から、史跡についての説明を受ける。 ・　地域の方々のお話を聞く。 ・　大切な事柄は、ロイロノートとメモ用紙を活用しメモを取る。	・　各グループを順に周り、児童の様子や進捗状況を確認し、スムーズに活動できるように声掛けをする。 ・　ロイロノートに必要な事柄を記録しておくよう声掛けをし、下学年への発表に活用できるようにする。
３　質疑応答を行う。 ・　事前学習で分からなかったことを質問する。	【主】　地域の方のお話を主体的な態度で聞いたり積極的に質問をしたりしている。（観察）
４　タブレットを活用しながら、資料集めを行う。 ・　写真を撮ったり、動画を撮ったりする。	
５　学習の振り返りを行う。	・　分かったこと、更に調べたいことをまとめ、次時への意欲付けを行う。

3.　今回の活動の自己評価

・　事前の調べ学習をしっかり行うことで、集中して話を聞くことができた。 ・　移動の道中に、地域の方々にインタビューするよう声掛けをしていたことで、楽しく話をしながら、地域の昔の様子などを詳しく聞くことができた。 ・　「学んだことを下級生に伝える」という次の目標があったため、相手を意識した話し方や聞き方を学習することができた。 ・　「書く活動」及び「話す活動」において、「主張」「理由・根拠」を明確にさせること、「初め」「中」「終わり」の３段落構成を意識して文章をつくることを大切にしてきた。その結果、３段落構成を意識して文章を書くことができるようになってきた。

4.　今後の課題

・　地域の方のお話には専門的な用語が多く、理解できにくい児童も少なくなかった。事後指導の中で理解を深める必要がある。 ・　クラスを幾つかのグループに分けて活動することで、見取りが十分でない部分があったため、手立てを考える必要がある。 ・　地域人材の高齢化が進んでおり、クラスを細分化しての活動が難しくなりつつある。支援していただく方々の負担を少なくし、尚且つ、地域の素晴らしさをしっかりと継承していけるような取組を考えていく必要がある。 ・　「書く」活動では、「主張」に対する「理由・根拠」が不明瞭であることが多く、今後も国語科などを通して、指導を続けていく必要がある。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・　多喜浜公民館を通じて、多喜浜塩田資料館建設推進委員と連携し、事前にしっかりと打ち合わせを行う必要がある。